

第一七二號

保存期限

永久

決裁指定

考査

決行指定

政務次官

同附

決裁

前連帶
後課名

工政

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

受領
番號
件名

九九式偵察機
九九式軍機
九九式雙引擎機
假制式制定ノ件

陸軍航空本部

陸軍航空本部

政務次官

參與官

書記官

審察者
記案

大臣

大臣

本部長

總務部長
主務部長

高級
副官

主務課長
主務課長

主務副官
官房御用係
計

主務副官
副官

主務副官
副官

主務副官
副官

航空三〇七號

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

陸軍

主務局長

受領

出提

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

昭示

決 裁 案

首題飛行機別紙構造要領ノ通假制式トシテ制定相成度

追而本飛行機ノ秘密區分ハ別表ノ通ト致度右決裁ヲ請フ

陸 密

陸軍大臣ヨリ參謀總長ヘ 照會

首題ノ件別紙構造要領ノ通假制式トシテ制定致度該構造要領並ニ審

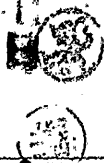
査成績ノ概要相添ヘ照會ス

追而本件ハ陸軍軍需審議會ニ於テ可決セラレタルモノニシテ本飛

行機ノ秘密區分ハ別表ノ通ト可致ニ付申添フ

陸密第八四四號

昭和十五年五月七日





右異存ナキ旨回答アリ航空本部ヨリ別紙調製送達後左案
決行

陸 密

省副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ 通牒

首題ノ件別紙構造要領ノ通假制式トシテ制定セラレタルニ付該構
造要領配賦目録ノ連送付ス

追而本飛行機ノ秘密區分ハ別表ノ通ニ付申添フ

陸密第八九二號

昭和五年五月十一日

附屬品送付済

昭和拾五年七月拾日



陸 軍

別表

陸軍兵器機（秘）密取扱區分表

昭和十五年 月 日
陸軍省 號

陸軍

器材		區分	機（秘）密取扱區分	秘 密 事 項
九 九 式 襲 撃 機	九 九 式 軍 偵 察 機	名 稱		
軍 事 秘 密	軍 事 秘 密	九 九 式 双 輕 爆 撃 機	軍 事 秘 密	性能、主要構造及寸法、機關銃及 彈藥ノ數量、爆彈ノ彈種及彈量 機關ノ特性及其ノ最大馬力 右諸元ヲ察知シ得ル如キ寫眞撮影 ヲ禁ズ
軍 事 秘 密	軍 事 秘 密	九 九 式 襲 撃 機	軍 事 秘 密	
軍 事 秘 密	軍 事 秘 密	九 九 式 軍 偵 察 機	軍 事 秘 密	

1250

極秘

九九式双軽爆撃機審査成績概要

昭和十五年三月
陸軍航空本部

目次

第 二 審 査 の 目 的
 第 二 判 決
 第 三 審 査 一 般 の 成 績
 第 四 審 査 経 過 の 概 要

別 紙 第 一 九 九 式 双 軽 爆 撃 機 構 造 概 要 諸 元 飛 行 性 能
 別 紙 第 二 陸 軍 航 空 本 部 航 空 兵 器 研 究 方 針 抜 萃
 寫 真 二 葉

九九式双軽爆撃機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十二年二月二十二日改訂陸軍航空本部兵器研究方針ニ基キ川崎航空機工業株式会社ニ試作セシメタル「キ四十八」ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判決

本機ハ現行航空兵器研究方針ニ基キタル軽爆撃機トシテ適當ナルモノト認め

第三 審査一般成績

- 一 本機ノ構造 諸元及飛行性能別紙ノ如シ
- 二 行動半径

- 三 操縱性能
安定良好且操縱一般ニ容易ニシテ操縱性能良好ナリ
- 四 爆撃性能
爆撃性能ハ良好ニシテ降下角四十五度迄ノ急降下迄ニ水平ノ單發投ニ連続投下ハ容易ナリ
- 五 自衛性能
自衛性能ハ良好ナリ
- 六 構造強度
陸軍飛行機構造假規程及同改正案ニ基キ製作セラレ構造適當ニシテ強度充分ナリ
- 七 耐久性及取扱
耐久性ヲ有シ取扱容易ナリ

本邦軌道ニ依ル鐵道輸送可能ナリ

第四 審査經過ノ概要

昭和十二年二月二十二日改訂陸軍航空本部航空兵器研究方針ニ基キ昭和十三年二月十九日川崎航空機工業株式会社ニ試作ヲ命ジ爾來設計ノ審査実大模型審査、荷重試験及核能試験等ヲ実施シ極力試作ヲ促進シ昭和十四年七月上旬第一号機ヲ完成セシメ第一号機ヲ以テ各勢ヶ原ニ於テ試験飛行ヲ行ヒ同年八月以降立川ニ於テ試作核能ツキ基本審査ヲ実施シ同年十一月浜松陸軍飛行學校ニ於テ実用試験ヲ実施シタリ（別冊実用試験成績参照）

此ノ間九四〇〇米ニ至ル高度飛行、全飛行時間約三〇〇時間一機最大使用時間一八五時間、一六〇斤（奉天、大石洗間）ノ道線長距離飛行、昭和十四年一月ヨリ二月ニ至ル滿洲ニ於ケル寒地試験ヲ經タルモノナリ

別紙第一

九九式双軽爆撃機構造概要 諸元、飛行性能

一 構造概要

本機ハ中翼片持式單葉四座機ニシテアルミニウム合金ヲ
主材トシ胴体兩側主翼前縁ニハ二十五發動機各一基ヲ裝
シプロペラハ三翼油圧定回轉式ニシテ脚及尾輪ハ油圧ニ
依ル引込式ナリ

本機ノ構造寫眞第一及第二ノ如シ

二 本機ノ主要諸元次ノ如シ

全幅	約一七・四七〇米
全長	約二二・七五五米
全高	約三・八〇〇米
主翼面積(補助翼共)	約四〇 平米
空虚重量	約四・九〇 吨

搭載量
全備重量

約 一九七。瓩
約 六一六。瓩

三 本機は装着の發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニシテ
其ノ主要諸元次、如シ

名稱 (代用名稱)

ハ二十五

複列星型空氣冷式

型式
氣筒
數

一四

壓縮比

約六。七

プロペラ軸回轉方向

飛行方向ニ見テ右廻リ

減速裝置及減速比

惑星正齒車式 〇。六八七五

公稱回轉數

二六〇〇回/分

地上公稱馬力

約八七。馬力

公稱高度馬力 三四。米ニ於テ

約九七。馬力

離昇回轉數

二七〇〇回/分

離昇馬力

約九九。馬力

2. 上昇時間

六 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇	三 五 四 〇 (興圧高度)	三 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇	高 度(米)	最大水平飛行速度(ノット)
四 五 八	四 六 三	四 六 八	四 七 〇	四 六 一	四 四 四	四 二 六		

四本核、飛行性能次、如シ
 1. 水平飛行速度
 重量 全長
 量 径 長

約一・三一三米
 約一・一五〇米
 約五三〇底

五 主要裝備

1. 射撃裝備

理論上昇限度

一〇九四〇〇米

実用上昇限度

一九九八〇米

3. 上昇限度

高、度	上昇時間
一〇〇〇米迄	二分三七秒
二〇〇〇米迄	四分五二秒
三〇〇〇米迄	六分五七秒
四〇〇〇米迄	八分〇六秒
五〇〇〇米迄	一分一分九秒
六〇〇〇米迄	一分四分三秒

- 2. 爆撃装備
 - 前方 試製単銃自旋回機関銃(三型) 一 実包四〇八發
 - 後上方 八九式旋回機関銃(特) 一 実包九〇〇發
 - 後下方 試製単銃自旋回機関銃(三型) 一 実包六一二發
- 標準爆弾搭載量 三〇〇斤
- 但之燃料ヲ減ジ四〇〇斤迄搭載シ得
- 搭載弾種 一五斤、五〇斤、一〇〇斤、三種トス
- 3. 無線装置 一式
- 4. 自動操縱機 一式
- 5. 方向探知機(特別装備) 一式
- 6. 寫真装置(特別装備) 一式

五

別紙第二

項目	要	要	摘	要
項目	核 撃 爆 軽	陸軍航空本部航空兵器研究方針抜萃	<p>一 主として敵飛行場ニ在ル飛行機輕易ナル諸施設ノ破壊ヲ地上庫隊ノ攻撃ニ用フ</p> <p>二 水平爆撃ヲ主トシ降下爆撃ヲモ実施シ得ヌルメテ行動ヲ輕快ナラシム</p> <p>三 行動半径ハ標準爆撃量ヲ搭載シタル時ハ四〇〇斤以上トシ時間ノ余裕ヲ有シ尙本來ノ性能ヲ害セサル範圍ニ於テ四〇〇斤以上ニ延長スルノ手段ヲ講ズ</p> <p>四 爆撃機ハ四〇〇斤以下トシ搭載量ハ三〇〇斤ヲ標準トス</p> <p>但シ行動半径四〇〇斤以下ナルトキハ所要ノ應シテ弾量ヲ四〇〇斤ニ増加シ得シム</p>	昭和五年五月十日改訂

輕 爆 擊 核
<p>五 常用高度二〇〇〇乃至五〇〇〇メートル 但シ自衛上一層高度ニ於テ行動シ得シ</p> <p>六 主要裝備</p> <p>1. 射撃裝備</p> <p>單發動機裝備ノ場合 固定機銃 一 旋回機銃 一</p> <p>雙發動機裝備ノ場合 旋回機銃 二乃至三</p> <p>2. 無線通信裝備 一式</p> <p>雙發動機裝備ノ場合ハ遠近ニ關シ無 線機又ハ之ニ準ズル以下之ニ同シ裝備ス</p> <p>3. 方向探知機裝備ニ付研究ス</p> <p>4. 特別裝備トシテ寫真裝備 一式</p> <p>5. 特別裝備トシテ瓦斯而下装置裝備付研究ス</p>

1262

海峽

平賀2.8.2250巻 文

寫眞第二



1263

九九式双軽爆撃機構造要領

昭和十五年三月
陸軍航空本部

九九式双軽爆撃機構造要領

第一用 途

一 本機ハ主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機、輕易ナル諸施設、破壊ヲ地上軍隊ノ攻撃ニ用フルモノトス

第二 構造機能ノ概要

二 本機ハ片持式準中翼單葉四座機ニシテ九九式九五〇馬力發動機ニ基及フロペラニ本ヲ裝ス

三 本機ノ機体ハ胴体、翼組、尾翼、降着装置具、他胴体内外附属諸装置等ヨリ成リ一部ニ鋼及マグネシウム合金ヲ用フル外主トシテアルミニウム合金ヲ用ヒ各操縱翼ハ羽布張トス 機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ亦必要ニ應ジ偽裝ノタメ塗色スルコトアリ

(1) 胴体ハ「アルミニウム」合金板製ハ肋材、縦通材及外板ヲ

主体トスル楕圓形張殻式構造ナリ

(1) 胴体前部ニハ前方機関銃座、爆撃席、操縦席及機関掛

席（兼隊長席）ヲ備ヘ中央部ニハ無線手席、後上方銃

座及後下方銃座ヲ備フ

前方銃座、操縦席、無線手席及後上方銃座ハ夫々透明

風よけヲ以テ被覆ス

操縦席前面ヨリ後上方銃座前面ニ至ル胴体下部ハ爆撃

倉ヲ形成シ手動閉閉式扉ヲ備フ

(2) 胴体内諸設備トシテ前方銃座ニ射撃装置ヲ爆撃席房ニ

爆撃装置、寫真装置及諸計器ヲ操縦席房ニ操縦装置、

發動機操作装置、始動装置、油壓装置及諸計器ヲ無線

手席房ニ無線装置及方向探知機装置ヲ後上方及後下方

銃座ニハ夫々射撃装置ヲ備ヘ各席房内ニハ照明其ノ他

ノ諸装置ヲ施ス

- (3) 操縦席房ト無線手席房間ニハ第四燃料「タンク」ヲ備ヘ
胴体後端ニハ引込式尾輪装置ヲ備フ
- (4) 翼組ハ片持式單葉ニシテ外翼及内翼ヨリ成リ外翼ニハ補
助翼、下ゲ翼、發動機なせる及脚組ヲ装着ス
- (1) 外翼ハ二桁式構造ニシテ前後主桁、小骨及外板ヨリ成
リ其ノ後縁ニハ補助翼及下ゲ翼ヲ左右外翼付根附近ニ
ハ發動機なせる及引込式脚組ヲ装着ス
- なせる内方前縁部ニハ左右各一箇ノ第一燃料「タンク」
ヲ同前後桁間ニハ左右各一箇ノ第二燃料「タンク」ヲ備
フ
- (2) 内翼ハ胴体ト一体ニ構成セラレ前後桁間ニハ第三燃料
「タンク」ヲ收容ス
- (3) 内翼ト外翼トハ前後桁上下部ニ於テ左右各四本ノ「ボ
ルト」ニ依リ結合セラル
- (4) 補助翼ハ左右外翼後縁部ニ各一箇ヲ有シ「アル」ニシテ

合金製軸管及小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以テ覆フ

覆フ

(5) 下翼ハ「アルミニウム」合金製骨組及外板ヨリ成リ左

右外翼内方後縁部ニ装着セラレ油圧ニヨリ作動ス

(6) 發動機を運ぶハ發動機架ハ脚取付架、發動機覆、發動機架覆、翼上下面整形覆、カウルフラップ、防火壁

集合排氣管及「プロペラボス」覆等ヨリ成リ發動機架及

脚取付架ハ外翼前後桁ニ「ボルト」ニ依リテ組立テラレ

脚取付架及外翼後桁ニハ引込式脚組ヲ装着ス外翼前桁

後面ニハ滑油「タンク」ヲ前面ニハ滑油冷却器ヲ装着ス

尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定

板及昇降舵ヨリ成リ垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ

成ル

(1) 水平及垂直安定板ハ二桁片持式ニシテ「アルミニウム」

合金製骨組及外板ヨリ成リ水平安定板ハ四本「ボルト」

ニシテ「アルミニウム」合金製骨組及外板ヨリ成リ

ニ依リ胴体尾端上面ニ取付ケラレ垂直安定板ハ四本

「ボルト」ニ依リ永平安定板上面中央部ニ取付ケラル

(2) 昇降舵及方向舵ハ「アルミニウム」合金製桁及小骨ヲ以

テ骨組ヲ構成シ外面ハ羽布張ナリ

昇降舵及方向舵ニハ飛行中調整可能ナル平衡板ヲ有ス

(二) 降着装置ハ脚組及尾輪装置ヨリ成リ共ニ油圧作動ニヨル

引込式ナリ

(1) 脚組ハ單脚片持式ニシテ緩衝支柱、斜支柱、折畳支柱

及車輪等ヨリ成リ緩衝支柱ハ油圧及空氣圧併用式ナリ

車輪ハ九〇〇×三二〇高圧車輪(油圧制動)ヲ使

用ス

(2) 尾輪装置ハ緩衝支柱、又狀金具、尾輪固定装置及尾輪

等ヨリ成リ緩衝支柱ハ油圧及空氣圧併用式ニシテ尾輪

ハ四〇〇×一〇〇高圧尾輪ヲ使用ス

(ホ) 操縦装置ハ操縦装置ニシテ補助翼、昇降舵及方向舵

各操縦装置及下ゲ翼柱ニ昇降舵及方向舵平衡板操作装置等ヨリ成リ自動操縦装置ヲ装着シ得
 (2) 附属諸装置ハ燃料装置、給油装置、始動装置、油圧装置及發動機操作装置註ニ「プロペラ」調速器操作装置等ヨリ成ル

(1) 燃料装置ハ燃料タンク、送油装置及諸配管等ヨリ成ル
 タンクハ四系統ニ分レ第一タンクハ左右外翼内方前縁部ニ第二タンクハ左右外翼内方第三タンクハ内翼前後桁間ニ第四タンクハ胴体内操縦席直後ニ装備サレ何レモ耐錆「アルミニウム」板及耐錆「アルミニウム」合金板製ニシテ第二、第三及第四タンクニ防火被覆ヲ施シアリ
 送油ハ「ポンプ」式トス
 (2) 給油装置ハ發動機ノ油「ポンプ」、滑油「タンク」、滑油冷却器及諸配管ヨリ成リ滑油「タンク」ハ發動機ナセる

内ノ外翼前桁直後ニ滑油冷却器ハ發動機存せる内防火壁前面上部ニ装着サル

(3) 始動装置ハ四号慣性始動機及始動車用始動受金ヲ有ス
(4) 油圧装置ハ油圧發生装置、脚及尾輪上下操作装置及下

ゲ翼開閉操作装置及車輪制動装置ヨリ成ル

油圧發生装置ハ發動機直結ノ高圧油「ポンプ」及手動油「ポンプ」ヨリ成リ脚、尾輪及下ゲ翼ノ操作ハ操縦席右

側操作柜上ニ設ケラレタル操作弁ノ操作ニ依リテ行フ

(5) 發動機操作装置ハ氣化器絞弁及高空弁操作装置ヲ超
過給操作装置ヨリ成ル

(6) 以上ノ外「カウルフラップ」開閉装置、滑油冷却器空氣
取入口扉開閉装置及氣化器空氣取入口防塵具操作装置
等ヲ備フ

四本機ノ發動機ハ九九式九五〇馬力發動機十四氣筒複列星型
空氣冷式ニシテ燃料供給装置、滑油循環装置、始動装置ヲ

油圧及真空發生裝置等ヲモ
附属セシメ得ル構造ヲ有ス
其ノ主要諸元及性能次ノ如シ
(1) 諸元

氣 筒 徑
衝 程

重 量

發動機ノ全徑

發動機ノ全長

プロペラ回轉方向 (飛行方向視テ)

燃料及滑油費率 (航空機ノ揮發油ヲ用テ)

滑油及滑油費率 (航空機ノ滑油ヲ用テ)

一・三〇 耗

一・五〇 耗

約 五三〇 斤

約 一・一五〇 米

約 一・三一三 米

右廻リ

公稱回轉數及地上公稱馬力ニ於テ二八〇馬力時

ヲ標準トス

公稱回轉數及地上公稱馬力ニ於テ五五馬力時

ヲ標準トス

(四) 性能
公 稱

回轉數

地上馬力

高度

高度馬力

離昇

回轉數

馬力

五「プロペラ」ハ三翼油圧式定回轉「プロペラ」ナリ

六装備

(イ) 射撃装置

八九式旋回機関銃(特)一銃 実包九〇〇發及試製單銃

身旋回機関銃(ニ型)一銃 実包一〇〇ニ〇發ヲ裝備ス

(ロ) 爆撃装置

懸吊、投下及照準ノ諸装置ヨリ成リ三〇〇斤ヲ標準トシ

總重量四〇〇斤以内ノ爆彈ヲ搭載シ水平及降下角四十五

五

度以内ノ急降下ニ於ケル單發機ニ連續投下ヲ行フコトヲ
得 尚本装置ヲ利用シ瓦斯而下装置ヲ使用シ得ル如ク考
慮シアリ

(ハ) 無線装置

無線機一組 (二組裝備シ得) 方向探知機一組ヲ裝備ス

(ニ) 寫真装置

一組ヲ裝備ス

(ホ) 計測器装置

遠方回轉計一組、速度計二箇、高度計二箇、旋回指示器
一箇、羅鍼盤三箇、飛行時計二箇、昇降計一箇、吸入壓
力計二箇、燃料油壓計(双針型)一箇、油量計一組、滑
油々圧計(双針型)一箇、滑油溫度計二箇、氣筒溫度計
一箇、排氣瓦斯計(二型)一箇、吸氣ポンプ二箇、大
氣溫度計一箇等ヲ装着ス

(ヘ) 電氣装置

機上發電機二組並ニ同蓄電池一組及照明用諸燈器ヲ装着ス

(ト) 各種附屬品

落下傘四箇 同乗者用安全「バンド」二箇 酸素吸入器四組 通話器一式及各座席間連絡装置等ヲ装着ス

七 其他必要ナル事項

(イ) 本校ハ本邦軌道ニ依ル輸送可能ナリ

(ロ) 本校ハ機体構成ノ各部結合ハ鉦又ハ「ホルト」止ナルヲ以テ部分的修理及交換等容易ナリ

第三 主要諸元

全幅	約一七・四七〇米
全長	約一三・七五五米
全高	約三・八〇〇米
主翼面積 (補助翼共)	約四〇平方米

各種附屬品	電氣裝置	寫真裝置	無線裝置	爆擊裝置	火器	乘員	滑油	燃料	塔載量	全備重量	空虛重量
					旋回機銃		常時 燃料滿載時	常時 滿載時	常時 燃料滿載時	常時 燃料滿載時	
一	一	一	一	一	三	四	一〇〇立	八〇立	一六八〇立	一三六〇立	
式	式	式	式	式	組	名	立	立	立	立	
		燃料滿載時 (爆彈五〇発)	常時 (爆彈三〇発)								
		約	約	約	約	約	約	約	約	約	約
		四八〇	六三〇	二八〇	九七	七八	一一〇	二九〇	一六二〇	六一六〇	四一九〇
		発	発	発	発	発	発	発	発	発	発

主要性能

實用昇限度

理論昇限度

上昇時間

水平飛行速度

高度

三〇〇〇米迄
五〇〇〇米迄

一〇〇〇米ニ於テ
二〇〇〇米ニ於テ
三〇〇〇米ニ於テ
三〇〇〇米ニ於テ
四〇〇〇米ニ於テ
五〇〇〇米ニ於テ

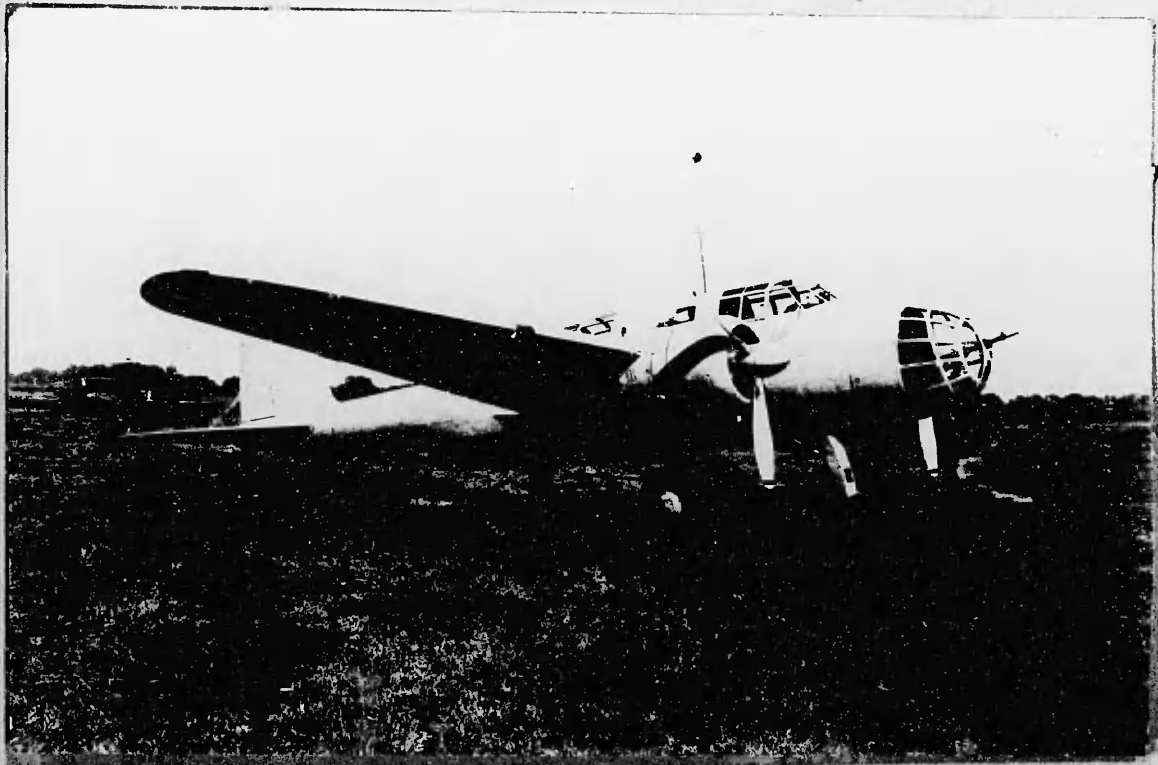
一〇分四〇〇秒
九分八〇〇秒
六分五七秒
一分二九秒

四二六
四四四
四六一
四七一
四六八
四六三
四六三
四六三
四六三
四六三

七

1278

昭和22年8月2日



178

1279

極秘

九九式軍偵察機審査成績概要

昭和十五年三月
陸軍航空本部

目次

- 第一 審査の目的
- 第二 判断
- 第三 審査一般の成績
- 第四 審査経過の概要

別紙第一 九九式軍偵察機構造概要諸元及飛行性能
 別紙第二 陸軍航空本部航空兵器研究方針沿革
 寫真 二葉

九九式軍偵察機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十二年二月二十二日改訂陸軍航空本部航空兵器研究方針ニ基キ昭和十三年一月三十一日三菱重工業株式會社ニ試作セシメタルキ五十一ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判 決

本機ハ現行航空兵器研究方針ニ基キタル軍偵察機トシテ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般成績

一 本機ノ構造諸元及飛行性能ハ別紙ノ如シ

二 行動半径

行動半径ハ要求條件ヲ充足シ爆彈ニ〇〇冠ヲ搭載シ四〇〇
 斤ニシテ行動ノタメ一時間ノ餘裕ヲ有ス

尚燃料ヲ満載セル場合ニハ六〇〇斤ニシテ行動ノタメ一
 時間ノ餘裕ヲ有ス

三 操縦性能

安定良好且操縦一般ニ容易ニシテ操縦性能良好ナリ

四 爆撃性能

爆撃性能ハ良好ニシテ急降下並ニ水平ノ單發及連續投下ハ

容易ナリ

五 自衛性能

自衛性ハ適良ナリ

六 構造強度

陸軍飛行機構造假規程及同改正案ニ基キ製作セラレ構造
 適當ニシテ強度充分ナリ

七耐久性及取扱
 耐久性ヲ有シ取扱容易ナリ。
 ハ本邦軌道ニ依ル鉄道輸送可能ナリ

第四 審査経過ノ概要

昭和十二年二月二十二日改訂陸軍航空本部航空兵器研究方針
 ニ基キ昭和十三年一月三十一日三菱重工業株式會社ニ試作ヲ
 命ズ

爾來設計ノ審査実大模型ノ審査荷重試験振動試験及機能試験
 等ヲ実施シ極力試作ヲ促進シ昭和十四年六月第一號機ヲ完成
 セシメ第一號機ヲ以テ各務原ニ於テ試験飛行ヲ行ヒ同年六月
 以降立川ニ於テ試作機ニツキ基本審査ヲ実施シ同年十月濱松
 陸軍飛行学校ニ於テ第一次実用試験ヲ終了シ次ニ増加試作
 機三機ヲ以テ同年十一月下志津陸軍飛行学校ニ於テ第二次
 実用試験ヲ終了シタリ(別冊実用試験成績参照)

此ノ間ハ、九六〇米ニ至ル高压飛行(所要時間三十分五七秒)飛行
 時間四七〇時間「機最大飛行時間七八時間 九〇軒(天カ洗、立
 川間)ノ直線長距離飛行、昭和十四年一月ヨリ二月ニ至ル満洲
 ニ於ケル寒地試験ヲ経タルモノナリ

別紙第一

九九式軍偵察機構造概要及諸元及飛行性能

一 構造ノ概要

本機ハ片持式低翼單葉複座機ニシテ機体ハ「アルミニウム」合金ヲ主材トシ一部ニ鋼及「マグネシウム」合金ヲ使用シ胴体前端ニ「ハニ十六」ニ型發動機一基ヲ装着シ「プロペラ」ハ油圧式定速「プロペラ」ニシテ其ノ構造寫眞第一及第二ノ如シ

ニ 本機ノ主要諸元次ノ如シ

全幅	約一三・一〇〇米
全長	約九・二一〇米
全高	約三・七二五米
主翼面積(補助翼共)	約二四・二〇平方米
空虚重量	約一九・一五

搭載量 常時 燃料満載時
 燃料満載時
 常時
 燃料満載時
 本機ニ装着セル發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニ
 シテ其ノ主要諸元次ノ如シ

名 稱 (代用名稱)
 型 式
 氣 筒 数
 壓 縮 比
 フロハ軸回轉方向
 減速装置及減速比
 公稱回轉數
 地上公稱馬力
 公稱高度馬力 三三〇米於テ

ハ二十六「二」型
 複列星型空氣冷式
 一四
 約六・五
 飛行方向見テ右廻リ
 惑星正齒車式 〇・六八八
 二六〇〇回分
 約八八〇馬力
 約九五〇馬力
 約 七八〇 匹
 約 八六〇 匹
 約 二六九五 匹
 約 二七七五 匹

2. 上昇時間

五 〇 〇 〇	四 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇	二 一 〇 〇 (興圧高度)	一 〇 〇 〇	高 度 (米)	最大水平飛行速度(時速)
四 三 〇	四 三 七	四 四 一	四 四 三	四 一 七		

四本機ノ飛行性能次ノ如シ
1. 水平飛行速度

重量 全長 全離昇馬力 離昇回轉數

約五二六馬力
約一三一八米
約一三九二米
約九四〇馬力
二六五〇^回/_分

上昇高度	上昇時
一〇〇〇米迄	一分三四秒
二〇〇〇米迄	三分〇七秒
三〇〇〇米迄	四分四六秒
四〇〇〇米迄	六分三六秒
五〇〇〇米迄	八分四七秒
六〇〇〇米迄	一分二五秒

3. 上昇限度

實用上昇限度

理論上昇限度

八九五〇米
九二〇〇米

五. 主要装備

1. 射撃装備

(前方) 八九式固定核閃銃

甲一
乙一

實包 六〇〇發

(後方) 試製單銃身旋回核閃銃(三型) 一 實包 五四四發

2. 寫眞裝備

自動航空寫眞機及小航空寫眞機

一式

3. 無線裝備

九六式飛二號無線機

一式

4. 爆撃裝備(特別裝備)

爆撃機ハ翼下ニ五〇斤彈ノ場合ニ〇〇斤、一五斤彈ノ場合一八〇斤ヲ搭載シ之ニ要スル投下装置ヲ具フ

別紙第二

軍偵機		項目	摘要	摘	要
陸軍航空本部航空兵器研究方針抜萃					
一	主トシテ搜索ニ時トシテ爆撃ニ用フ				
二	襲撃機ト同一機種トス 但シ装備ハ用途ニ應ジ適宜取捨スルモノトス、瓦斯而下装置ヲ特別装備トシ其ノ装備量ハ爆弾量ニ分ノ一トス				
三	常用高度ハ二〇〇〇乃至四〇〇〇米トス				

1291

海峽

平成2.8.22現在

1292

寫眞第三

文苑28.8.22

1293

九九式軍偵察機構造要領

昭和十五年三月
陸軍航空本部

九九式軍偵察機構造要領

第一用 途

一 本機ハ主トシテ搜索ニ時トシテ爆撃ニ用フルモノトス

第二 構造機能ノ概要

二 本機ハ片持式低翼單葉複座機ニシテ九九式九〇〇馬力發動機一基及プロペラ一本ヲ装着ス

三 本機ノ機体ハ胴体、翼組、尾翼、降着装置、操縦装置其ノ他胴体内外附屬諸装置ヨリ成リ一部ニ鋼及マグネシウム合金ヲ用フル外主トシテアルミニウム合金ヲ用ヒ各操縦翼ハ羽布張りトス機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ又必要ニ應ジ偽装ノ為塗色スルコトアリ

四 胴体ノ縦通板、円框及外板ヲ主体トスル楕円形張殻式構造ニシテ胴体主体、發動機架及胴体内諸装置ヨリ成ル

- (1) 胴体主体ハ操縦席、同乗席及後部胴体ヨリ成リ操縦席ト同乗席ハ密接シ連絡ニ便ナラシメ乗員席上面ニハ開閉式透明風よけヲ附ス操縦席前下方外板部及腰掛底部竝ニ背當ニハ防弾鋼板ヲ展張ス
- (2) 胴体内諸設備トシテ操縦席房内ニ操縦装置、諸計器、始動装置、射撃装置及爆撃装置ヲ同乗席房内ニ無線装置、寫真装置、射撃装置、諸計器及雜裝備ヲ備ヘ兩座席房内ニ照明其ハ他ノ諸装置ヲ施シ操縦者非常脱出ノ為操縦者背當ヲ解脱式トナス
- (3) 發動機架ハ胴体前端ニ四本ノ「ホルト」ヲ以テ取付ケラレ着脱容易ニシテ其ノ前面ニ緩衝「ゴム」ヲ介シテ發動機ヲ装着ス發動機及發動機架ハ「カウルフラツプ」ヲ有スル發動機覆ニテ被覆ス
- (4) 翼組ハ胴体ト一体ヲ成セル中央翼及外翼ヨリ成リ外翼ニ上反角ヲ附ス

- (1) 中央翼ハ前後桁及外板ニ依リ胴体ニ一体ニ構成セラレ
 前桁左右端ニハ脚組ヲ取付ケ前縁、前後桁間及後桁後
 部ニハ燃料タンクヲ装シ後縁下面ニ下ゲ翼ヲ有ス
- (2) 外翼ハ前後桁ヲ有スル箱型桁ヲ小骨ヲ主体トシ外板ヲ
 以テ被覆シ四本ノ「テーパーボルト」ニ依リ中央翼ニ結合
 ス後縁ニハ補助翼ヲ有シ前縁ニハ機関銃、着陸燈ヲ装
 シ又左翼前縁ニハ速度計用「ピトー」管ヲ装ス尚翼下面
 前後桁間ニハ爆彈懸梁ヲ装ス
- (3) 下ゲ翼ハ一箇ノ箱型桁、小骨及外板ヨリ成リ油圧式手
 動ポンプニ依リ作動ス
- (4) 補助翼ハ一箇ノ桁及小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以
 テ被覆ス
- (5) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定
 板及昇降舵、垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル
- (6) 水平及垂直安定板ハ前後桁及小骨ヲ主体トシ外板ヲ以

- テ被覆セルモノニシテ何レモ片持式トス
- (2) 方向舵及昇降舵ハ桁及小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以テ被覆セルモノニシテ昇降舵ニハ飛行中調整可能ナル平衡板ヲ装着ス
- (二) 降着装置ハ脚組、車輪、車輪制動装置及尾輪装置ヨリ成ル
- (1) 脚組ハ單脚片持式ニシテ脚柱支基及緩衝装置ト一体ヲ成ス脚柱ヨリ成リ緩衝装置トシテハ空氣油圧併用ノ緩衝器ヲ用フ
- (2) 車輪ハ六八五×二ニハ高压制動車輪ニシテ車輪覆ヲ有ス
- (3) 車輪制動装置ハ油圧式ニシテ足踏式油圧ポンプニ依リ油圧ヲ發生ス
- (4) 尾輪装置ハ緩衝器ヲ有スル支持框及尾輪ヨリ成リ尾輪ニハ二〇〇×七五Bソリッド尾輪ヲ用フ
- (ホ) 操縦装置ハ單操縦装置ニシテ補助翼、方向舵、昇降舵ノ

各操縦装置及下ゲ翼、昇降舵平衡板操縦装置ヨリ成リ必
要ニ應ジ容易ニ複操縦装置ニ改変スルコトヲ得

(ハ) 附屬諸装置ハ燃料始動及給油装置等ヨリ成ル

(1) 燃料装置ハ燃料「タンク」送油装置及防火装置等ノ諸配
管ヨリ成ル

「タンク」ハ左右前縁、中央及後方ノ諸「タンク」ヨリ成
リ前縁及後方「タンク」ハ錫鍍鋼板製ニシテ中央「タンク」
ハ「アルミニウム」合金板製ナリ各「タンク」ハ防火被覆ヲ
施ス

(2) 始動装置ハニ號慣性始動機及始動車用始動受金ヲ有ス
(3) 給油装置ハ發動機ノ油「ポンプ」、滑油「タンク」、同諸配
管ヨリ成リ滑油「タンク」ハ胴体前端ニ装着ス

四本機ノ發動機ハ九九式九〇〇馬力發動機十、四氣筒複列星型
空氣冷式ニシテ氣化、與圧、分配、点火及運轉等ノ諸装置
ヲ備ヘ尚燃料供給、始動、發電及吸氣「ポンプ」装置等ヲ附

三

屬セシメ得ル構造ヲ有ス
其ノ主要諸元及性能次ノ如シ
の諸元

氣筒 徑
衝程 量

發動機ノ全徑
發動機ノ全長

プロペラノ回転方向(飛行方向ニ見テ)
燃料及同消費率(航空八七揮發油ヲ用ヒ)

滑油及同消費率(航空礦油)

(四) 性能
公稱

一四〇 耗

一三〇 耗

約五二六 耗

約一・一一八 米

約一・三九二 米

右廻リ

公稱回転数及公稱地上馬力

ニ於テ三〇瓦馬力時ヲ標準トス

公稱回転数及公稱地上馬力ニ

於テ五瓦馬力時ヲ標準トス

回転数

地上馬力

高度

高度馬力

離昇

回転数

馬力

二、六〇〇回/分

約八八〇馬力

約二、三〇〇米

約九五〇馬力

二、六五〇回/分

約九四〇馬力

五、^二フ^ロペ^ラハ三翼袖圧式定回転^二フ^ロペ^ラナリ

六装備

(1)射撃装置

八九式固定機関銃甲乙各一、実包六〇〇發、照準眼鏡一

試製單銃身旋回機関銃(二型)一、実包五四四發ヲ装備シ

且信號拳銃一ヲ具フ

(2)寫真装置

懸吊装置ヲ有シ小航空寫真機及自動航空寫真機ヲ装備ス

(一) 無線装置一組ヲ裝備ス

(二) 計測器装置

回転計一箇、速度計二箇、高度計二箇、旋回指示器一箇
 羅針盤一箇、飛行時計一箇、昇降計一箇、人工水準器一
 箇、氣筒温度計一箇、吸入圧力計一箇、排氣瓦斯計一箇
 燃料油圧計一箇、滑油々圧計一箇、滑油温度計一箇、吸
 氣ポンプ一箇等ヲ装着ス

(ホ) 電気装置

機上發電機一組並ニ同蓄電池一組及照明用諸燈器ヲ装着
 ス

(ハ) 各種附屬品

落下傘二箇、同乗者用安全「バント」一箇、偏流計一箇、
 偵察用具一組及搭載器具一組等ヲ裝備ス

(ニ) 爆撃装置(特別裝備)

懸吊、投下及照準ノ諸装置ヨリ成リニ〇〇延以内ノ爆彈

ヲ搭載シ急降下ニ於ケル單發並ニ連續投下ヲ行フコトヲ
得

尚本装置ヲ利用シ瓦斯兩下装置ヲ使用シ得ル如ク考慮シ
アリ

(丙) 酸素吸入装置 (特別裝備)

操縦者及同乗者ニ對シ各一組ヲ具フ

七、其ノ他必要ナル事項

(イ) 本機ハ本邦軌道ニ依ル輸送可能ナリ

(ロ) 本機ノ機体構成ノ各部結合ハ鉸又ハ「ボルト」止ナルヲ以

テ部分的交換及修理容易ナリ

第三 主要諸元

全 全 全

幅 長 高

約 一・二一〇〇 米

約 九・二一〇 米

約 三・七二五 米

五

主翼面積(補助翼共)

空虚重量

全備重量

(但爆弾ナシ)

搭載量

(但爆弾ナシ)

搭載量内譯

燃料

滑油

乗員

爆弾

裝備品

射撃装置

常時

燃料満載時

常時

燃料満載時

常時

燃料満載時

常時

燃料満載時

常時

燃料満載時

特別裝備)

約二四二〇平方尺

約一九一五尺

約二六九五尺

約二七七五尺

約七八〇尺

約八六〇尺

約三七〇尺

約四四六尺

約三三〇尺

約三四尺

約一四〇尺

約二〇〇尺

約二〇〇尺

約五〇五立
約六〇八立
約三一立
約三五立
二名

一式

主要性能

- 各種附屬品
- 電氣裝置
- 計器裝置
- 無線裝置
- 寫真裝置
- 爆擊裝置

理論

實用

上昇時間

水平飛行速度

高度

上昇限度

上昇限度

二〇〇〇米迄

一〇〇〇米ニ於テ

二一〇〇米ニ於テ

三〇〇〇米ニ於テ

四〇〇〇米ニ於テ

五〇〇〇米ニ於テ

式式式式式式

約二四〇延

九二〇〇米

八九五〇米

三分〇七秒

四一七料/時

四四三料/時

四四一料/時

四三七料/時

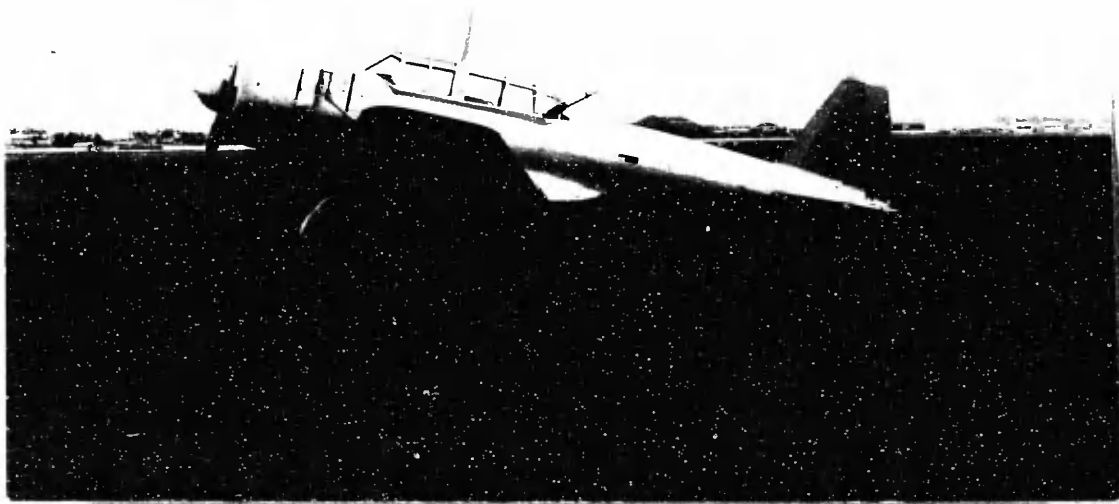
四三〇料/時

六

1305

平化、8.22 丑、

1306



1307

極
秘

九九式襲撃機審査成績概要

昭和十五年三月
陸軍航空本部

目次

- 第一 審査の目的
- 第二 判
- 第三 審査一般の成績
- 第四 審査経過の概要

別紙第一 九九式襲撃機構造概要諸元飛行性能
 別紙第二 陸軍航空本部航空兵器研究方針沿革
 寫真 二葉

九九式襲撃機審査成績ノ概要

第一 審査ノ目的

昭和十二年二月二十二日改訂陸軍航空本部航空兵器研究方針ニ基キ昭和十三年一月三十一日三菱重工業株式會社ニ試作セシメタル五十一ニ就キ制式機トシテノ適否ヲ判定スルニ在リ

第二 判 決

本機ハ現行航空兵器研究方針ニ基キタル襲撃機トシテ適當ナルモノト認ム

第三 審査一般成績

- 一、本機ノ構造、諸元及飛行性能別紙ノ如シ
- 二、行動半径

- 行動半径ハ要求條件ヲ充足シ爆弾ニ〇〇冠ヲ搭載シ四〇〇
 料ニシテ行動ノタメ一時間ノ餘裕ヲ有ス
 尚燃料ヲ満載セル場合ニハ六〇〇料ニシテ行動ノタメ一時
 間ノ餘裕ヲ有ス
- 三 操縦性能
 安定良好且操縦一般ニ容易ニシテ操縦性能良好ナリ
- 四 爆撃性能
 爆撃性能ハ良好ニシテ急降下並ニ水平ノ單發及連續投下ハ
 容易ナリ
- 五 自衛性能
 自衛性能ハ適良ナリ
- 六 構造強度
 陸軍飛行機構造假規程及同改正案ニ基キ製作セラレ構造適
 當ニシテ強度充分ナリ
- 七 耐久性及取扱

耐久性ヲ有シ取扱容易ナリ
 八本邦軌道ニ依ル鉄道輸送可能ナリ

第四 審査経過ノ概要

昭和十二年二月二十二日改訂陸軍航空本部航空兵器研究方針
 ニ基キ昭和十三年一月三十一日ニ菱重工業株式會社ニ試作ヲ
 命ス

爾來設計ノ審査 實大模型ノ審査 荷重試験 振動試験及機
 能試験等ヲ実施シ極力試作ヲ促進シ昭和十四年六月第一号機
 ヲ完成セシメ第一号機ヲ以テ各務原ニ於テ試験飛行ヲ行ヒ同
 年六月以降立川ニ於テ試作機ニツキ基本審査ヲ実施シ同年十
 月濱松陸軍飛行學校ニ於テ實用試験ヲ終了シタリ

(別冊實用試験成績参照)

此ノ間全飛行時間四七〇時間 一機最大飛行時間一二六時間
 九一〇斤(太刀洗、立川間)ノ直線長距離飛行一〇四三回ノ

離着陸（一機最大ニ七一回）
昭十四年一月ヨリ二月ニ至
ル満洲ニ於ケル寒地試験ヲ経タルモノナリ

別紙第一

九九式襲撃機構造概要及飛行性能

一 構造、概要

本機ハ片持式低翼單葉複座機ニシテ機体ハアルミニウム合金ヲ主材トシ一部ニ鋼及マグネシウム合金ヲ使用シ胴体前
 端ニハ二十六二型發動機一基ヲ装着シプロペラハ油圧式定
 回轉プロペラニシテ其ノ構造寫眞第一及第二ノ如シ
 二 本機ノ主要諸元次ノ如シ

全	幅	約一・一〇〇米
全	長	約九・二一〇米
全	高	約三・七二五米
	主翼面積(補助翼共)	約二四・三〇平方米
	空虚重量	約一九一五斤
	搭載量	約九二五斤
	燃料滿載時	約一〇〇五斤

全備(常時) 約 二八四〇 瓩
重量(燃料満載時) 約 二九二〇 瓩

三本機ニ装着セル發動機ハ規定ノ型式試験ニ合格セルモノニ
シテ、主要要諸元次、如シ

名稱(代用名稱) ハ二六六二型

型式 複列星型空冷式

氣筒數 一四

壓縮比 約六・五

プロペラ軸回転方向 飛行方向ニ見テ右廻リ

減速装置及減速比 惑星正齒車式。六八八

公稱回轉數 二六〇〇 回/分

地上公稱馬力 約八八〇 馬力

公稱高度馬力 二三〇 米ニ於テ約九五〇 馬力

離昇回轉數 二六五〇 回/分

離昇馬力 約九四〇 馬力

四、本機ノ飛行性能次ノ如シ

(1) 水平飛行速度

全長 約 一・三九二米
 全径 約 一・一一八米
 全量 約 五二六斤

(2) 上昇時間

高度 (米)	最大水平飛行速度 (秒時)
一〇〇〇	三九八
二、一〇〇	四二五
三、〇〇〇	四二三

上昇高度	上昇時間
一〇〇〇米迄	一分五〇秒
二〇〇〇米迄	三分二四秒
三、〇〇〇米迄	五分〇五秒

(3) 上昇限度

實用上昇限度

八二七。米

理論上昇限度

八六四。米

五、主要裝備

(1) 射撃裝備

(前方) ハ九式固定機関銃

乙甲

実包 六〇。發

(後方) 試製彈銃身旋回機関銃(二型)

実包 一〇。ニ。發

(2) 爆撃裝備

爆弾ハ翼下ニ五。座弾ノ場合ニ〇。座、一五座弾ノ場合

一八。座ヲ搭載シ之ニ要スル投下装置ヲ具フ

(3) 無線裝備

九六式飛ニ号無線機 一式

別紙第二

陸軍航空本部航空兵器研究方針抜萃

昭和十二年二月二十日改訂

項目	要	摘要
襲	<p>一、主トシテ敵飛行場ニアル飛行機ヲ地上軍隊ノ襲撃ニ用フ</p> <p>二、超低空ヲ降下爆撃ニ適シ努メテ行動ヲ軽快ナラシム</p> <p>三、行動半径ハ標準爆弾量ヲ搭載シタル時四〇〇斤トシ一時間ノ餘裕ヲ有セシム尚本来ノ性能ヲ害セザル範圍ニ於テ六〇〇斤以上ニ延長シ得ルノ手段ヲ講ギ</p> <p>四、爆弾ハ五〇延彈以下トシ搭載量ハ二〇〇延標準トス</p>	
撃		
機	<p>五、主要裝備</p> <p>六、射撃裝備</p>	

機 撃 装

固定機関銃 一
旋回機関銃 一

2. 無線通信装置一式

3. 反斯而下装置ヲ特別トシ其ノ裝備量ハ
少ナクモ爆彈量ノ二分ノ一以上トス

4. 固定機関銃數增加及特別裝備トシ
テ要部ノ装甲ニ付研究ス

写真第一



1313

高橋二



1320

1321

九九式襲撃機構造要領

昭和十五年三月
陸軍航空本部

九九式襲撃機構造要領

第一用 途

一 本機ハ主トシテ敵飛行場ニ在ル飛行機ヲ地上軍隊ノ襲撃
ニ用フルモノトス

第二 構造機能ノ概要

二 本機ハ片持式低翼單葉複座機ニシテ九九式九〇〇馬力發動
機一基及プロペラ一本ヲ装着ス

三 本機ノ機体ハ胴体 翼組 尾翼 降着装置 操縦装置其ノ
他胴体内外附属諸装置ヨリ成リ一部ニ鋼及マグネシウム合
金ヲ用フル外主トシテアルミニウム合金ヲ用ヒ各操縦翼ハ
羽布張トス機体ノ外表面ハ灰綠色塗料ヲ塗施シ又必要ニ應
ジ偽装ノ爲塗色スルコトアリ

(4) 胴体ハ縱通材 円框及外板ヲ主体トスル楕円形張殻式構

- 造ニシテ胴体主体、發動機架及胴体内諸装置ヨリ成ル
- (1) 胴体主体ハ操縦席、同乗席及後部胴体ヨリ成リ操縦席ト同乗席ハ密接シ連絡ニ便ナラシメ乗員席上面ニハ開閉式透明風よけヲ附ス
操縦席前下方外板部及腰掛底部迄ニ背當ニハ防弾鋼板ヲ展張ス
- (2) 胴体内諸設備トシテ操縦席房内ニ操縦装置、諸計器、始動装置、射撃装置及螺撃装置ヲ、同乗席房内ニ射撃装置、無線装置、諸計器及雑裝備ヲ備ヘ兩座席房内ニ照明其ノ他ノ諸装置ヲ施シ操縦者非常脱出、爲操縦者背當ヲ離脱式トナス
- (3) 發動機架ハ胴体前端ニ四本ノボルトヲ以テ取付ケラレ着脱容易ニシテ其ノ前面ニ緩衝ゴムヲ介シテ發動機ヲ装着ス發動機及發動機架ハカウルフラップヲ有スル發動機覆ニテ被覆ス

- (四) 翼組ハ胴体ト一体ヲナセル中央翼及外翼ヨリ成リ外翼ハ上反角ヲ附ス
- (一) 中央翼ハ前後桁及外板ニ依リ胴体ト一体ニ構成セラレ
 前桁左右端ニハ脚組ヲ取付ケ前縁 前後桁間及後桁後部ニハ燃料タンクヲ装シ後縁下面ニ下ゲ翼ヲ有ス
- (二) 外翼ハ前後桁ヲ有スル箱型桁及小骨ヲ主体トシ外板ヲ以テ被覆シ四本ノデーパードルトニ依リ中央翼ニ結合ス後縁ニハ補助翼ヲ有シ前縁ニハ機関銃 着陸燈ヲ装シ又左翼前縁ニハ速度計用ピトー管ヲ装ス
 尚下面前後桁間ニハ爆彈懸梁ヲ装ス
- (三) 下ゲ翼ハ一箇ノ箱型桁、小骨及外板ヨリ成リ油壓式手動ポンプニ依リ作動ス
- (四) 補助翼ハ一箇ノ桁及小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以テ被覆ス
- (ハ) 尾翼ハ水平尾翼及垂直尾翼ヨリ成リ水平尾翼ハ水平安定

- 板及昇降舵、垂直尾翼ハ垂直安定板及方向舵ヨリ成ル
- (1) 水平及垂直安定板ハ前後桁及小骨ヲ主体トシ外板ヲ以テ被覆セルモノニシテ何レモ片持式トス
- (2) 方向舵及昇降舵ハ桁及小骨ヲ以テ骨組ヲ構成シ羽布ヲ以テ被覆セルモノニシテ昇降舵ニハ飛行中調整可能ナル平衡板ヲ装着ス
- (二) 降着装置ハ脚組、車輪、車輪制動装置及尾輪装置ヨリ成ル
- (1) 脚組ハ單脚片持式ニシテ脚柱支基及緩衝装置ト一体ヲ成ス脚柱ヨリ成リ緩衝装置トシテハ空氣油壓併用ノ緩衝器ヲ用フ
- (2) 車輪ハ六八五×二二〇高壓制動車輪ニシテ車輪覆ヲ有ス
- (3) 車輪制動装置ハ油壓式ニシテ定踏式油壓ポンプニ依リ油壓ヲ發生ス

(山) 尾輪装置ハ緩衝器ヲ有スル支持框及尾輪ヨリ成リ尾輪
ニハニ〇〇×七五Bソリツド尾輪ヲ用フ

(ホ) 操縦装置ハ單操縦装置ニシテ補助翼、方向舵、昇降舵ノ
各操縦装置及下ヤ翼、昇降舵平衡板操作装置ヨリ成リ必
要ニ應ジ容易ニ複操縦装置ニ改変スル事ヲ得

(ハ) 附属諸装置ハ燃料、始動及給油装置等ヨリ成ル

(1) 燃料装置ノ燃料タンク、送油装置及防火装置等ノ諸配
管ヨリ成ル

タンクハ左右前縁、中央及後方ノ諸タンクヨリ成リ前
縁及後方タンクハ錫鍍鋼板製ニシテ中央タンクハアル
ミニウム合金板製ナリ各タンクハ防火被覆ヲ施ス

(2) 始動装置ハ二号慣性始動機及始動車用始動受金ヲ有ス

(3) 給油装置ハ發動機ノ油ポンプ、滑油タンク、同諸配管ヨ
リ成リ滑油タンクハ胴体前端ニ装着ス

四本機、發動機ハ九九式九〇馬力發動機十四氣筒複列星

型空氣冷式ニシテ氣化、與壓、分配、點火及運轉等、諸
 裝置ヲ備ヘ尚燃料供給、始動、發電及吸氣ポンプ裝置等
 ヲ附屬セシメ得ル構造ヲ有ス其ノ主要諸元及性能次ノ如
 シ

(1) 諸元

氣筒徑 一四〇。糎

衝程 一三〇。糎

重量 約 五二六 磅

發動機ノ全徑 約 一・一八 米

發動機ノ全長 約 一・三九 米

プロペラノ回轉方向 右廻リ(飛行方向ニ見テ)

燃料及同消費率 公称回轉數及公称地上馬力ニ於テ

(航空用揮發油ヲ用) 三〇。瓦ノ馬力時ヲ標準トス

滑油及同消費率 公称回轉數及公称地上馬力ニ於テ

(航空用油) 五五ノ馬力時ヲ標準トス

(四) 性能

公称

回轉數

二、六〇〇回分

地上馬力

約八八〇馬力

高度馬力

約二、三〇〇米

耐稱

約九五〇馬力

回轉數

二、六五〇回分

馬力

約九四〇馬力

五、プロペラハ三翼油壓式定速回轉プロペラナリ

六、裝備

(1) 射撃装置

八九式固定機関銃甲、乙各一、實包六〇發、照準眼鏡一

試製單銃身旋回機関銃(二型)一、實包一〇二發ヲ裝備

ス

(四) 爆撃装置

懸吊 投下及照準ノ諸装置ヨリ成リニ〇。近以内ノ爆弾ヲ搭載シ急降下ニ於ケル單發ヲニ連續投下ヲ行フコトヲ得

尚本装置ヲ利用シ瓦斯雨下装置ヲ使用シ得ル如ク考慮シアリ

(ハ) 無線装置一組ヲ裝備ス

(ニ) 計測器装置

回轉計一箇、速度計二箇、高度計二箇、旋回指示器一箇、羅針盤一箇、飛行時計一箇、昇降計一箇、人工水準器一箇、気筒温度計一箇、吸入圧力計一箇、排気瓦斯計一箇、燃料油圧計一箇、滑油圧計一箇、滑油温度計一箇、吸気ポンプ一箇等ヲ装着ス

(ホ) 電気装置

機上發電機一組、同蓄電池一組及照明用諸燈器ヲ装着

(ハ) 各種附属品

落下傘二箇 同乗者用安全バンド一箇 搭載器具一組等

装備ス

七、其、他、必要ナル事項

(イ) 本機ハ本邦軌道ニ依ル輸送可能ナリ

(ロ) 本機、機体構成ノ各部結合ハ錠又ハホルト止ナルヲ以テ部分的交換及修理容易ナリ

第三 主要諸元

全	幅	約一・二〇〇米
全	長	約九・二一〇米
全	高	約三・七二五米
主翼面積(補助翼共)		約二四・二〇平方米
空 虚 重 量		約一・九一五噸

計測器装置	無線装置	爆撃装置	射撃装置	裝備品	爆弾	乘員	滑油	燃料	搭載量	全備重量
一式	一式	一式	一式				常時 滿載時	常時 滿載時	常時 燃料滿載時	常時 燃料滿載時
							約三 五立	約六 八立	約五 五立	約 約
					二名					約
約一八五斤					約二〇〇斤	約一四〇斤	約三四斤	約三〇斤	約四四六斤	約三七〇斤
									一〇〇五斤	九二五斤
										二八四〇斤
										二九二〇斤

電気装置 一式
各種附属品 一式

主要性能

理論上昇限度

八六四。米

実用上昇限度

八二七。米

上昇時間二〇〇。米迄

三分二四秒

水平飛行速度

高度

一〇〇。米ニ於テ 三九八 粉/時

二一〇。米ニ於テ 四二五 粉/時

三〇〇。米ニ於テ 四二三 粉/時

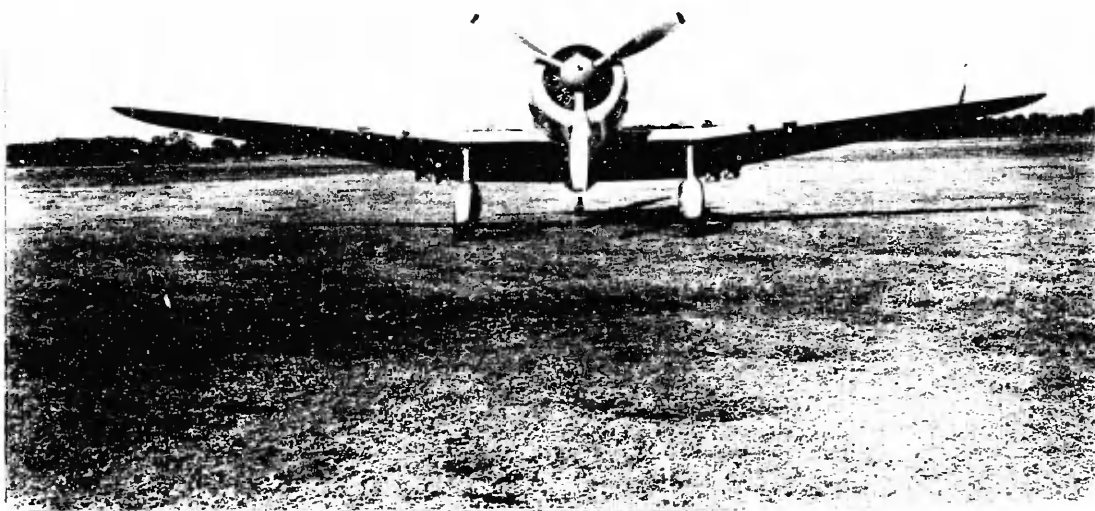
四〇〇。米ニ於テ 四二一 粉/時

五〇〇。米ニ於テ 四一四 粉/時

1332-2

平成28.8.22 花 欠

1333



1334



陸軍省
航空部
二五七部第二

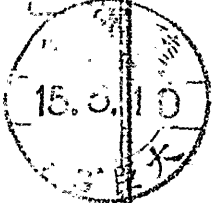
九九式双軽爆撃機
九九式軍偵察機假制式制定ノ件
九九式襲撃機

昭和拾五年五月九日

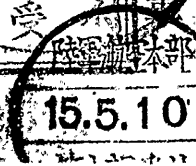
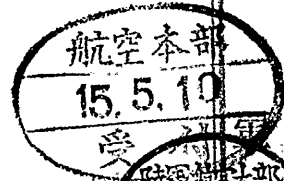
參謀總長 載仁 親

陸軍大臣 畑 俊六 殿

陸密第八四四號ニ依リ照會ノ首題ノ件異存無之



陸



日本標準規格 B-5

昭和十五年